

## 平成29年11月の現況と12月の対策（野菜）

**現況**（29年11月20日現在）

### 1 施設野菜

#### 果菜類

##### (1) トマト

若狭地区の夏越栽培は、25～26段果房を収穫中である。

抑制栽培は、福井地区では4～5段果房、坂井地区では6～7段果房を収穫中である。

若狭地区の越冬栽培は、8～9段果房を収穫中である。

うどんこ病が微発、トマトサビダニが少発、コナジラミ類が微～一部中発である。

##### (2) ミディトマト

県内の夏秋・抑制栽培は10月下旬～11月上旬でほぼ出荷終了した。

坂井、二州、若狭地区の促成長期どりでは、11～16段果房が開花中で、4～9段果房を収穫中である。

うどんこ病が少～中発、葉かび病が微～少発、ハモグリバエ類が少発、コナジラミ類が微～少発である。

##### (3) キュウリ

南越、二州地区では、11月末で収穫終了予定となっている。

##### (4) イチゴ（高設）

福井、坂井、南越、丹生、若狭地区では、定植の早いところで11月中旬から収穫が始まっている。

うどんこ病が微発、アブラムシ類が少～中発、ハダニ類が少発である。

#### 葉根菜類

##### (1) 軟弱野菜

福井地区のホウレンソウは、10月上旬播種後約40日で収穫中である。

##### (2) 青ネギ

若狭地区の周年水耕栽培は、9月下旬播種分を収穫中である。播種から収穫までの日数は約70～75日である。

##### (3) 白ネギ

坂井北部丘陵地では、葉鞘径が23mmで平年並みの生育である。

##### (4) コカブ

三里浜砂丘地のコカブは、9月中旬播種で10月下旬から出荷が始まっている。生育は、平年並み～やや遅れている。

## 2 露地野菜

### 果菜類

#### (1) ナス

奥越地区では、11月上旬で出荷終了した。

#### (2) ピーマン

丹生地区では、11月20日で収穫終了した。

#### (3) 一寸ソラマメ

坂井地区では、10月20日～30日にかけて定植された。本葉5～6枚となっており、生育は平年並みである。

若狭地区では、11月上～中旬にかけて定植されている。

### 葉菜類

#### (1) ネギ

4月下旬～5月上旬定植で、収穫終了もしくは終盤となっている。

5月中旬～6月中旬定植で、早いもので収穫が始まっている。台風により倒伏した圃場が多く、収穫開始が遅れている。奥越地区では収穫終盤となっており、12月9日頃に集荷終了予定となっている。さび病が微～少発、ハモグリバエ類が少発である。

越冬どりは、福井、奥越地区では、葉鞘径が10～20mmで昨年よりやや遅めの生育となっている。黒斑病が少発である。

#### (2) キャベツ

秋冬どりは、坂井北部丘陵地や県内の水田地帯で、7月末～8月中旬定植の早生、中生品種がほぼ収穫終了し、8月下旬定植の晩生品種が収穫されている。

越冬春どりは、10月下旬から11月10日頃まで定植が行われており、活着は良好である。黒腐病、菌核病が微～少発である。

#### (3) ブロccoli

福井、坂井、南越地区では、継続収穫中である。一部でアントシアンが発生しているが、12月中旬まで収穫予定である。

#### (4) 勝山水菜

生育が早いもので葉数8枚、葉長45cmとなっており生育は良好である。

カブラハバチ、アオムシが少発である。

### 根茎菜類

#### (1) ダイコン

三里浜砂丘地、坂井北部丘陵地ともに、台風通過後に生育が停滞し、平年より生育が1週間遅れている。11月下旬で収穫終了見込みとなっている。

#### (2) ニンジン

坂井北部丘陵地では、継続収穫中である。三里浜砂丘地では、播種が1週間遅れたため、11月16日から収穫が始まっており、L～M中心となっている。

黒葉枯病が微発である。

### (3) カンショ

坂井北部丘陵地では、11月中旬に収穫終了した。イモの肥大はLサイズが中心で平年並みである。

### (4) サトイモ

奥越地区では、長雨のため収穫作業が遅れている。出荷量は、計画より多く推移しており、平年よりも多い。

### (5) ラッキョウ

台風通過後地上部の損傷のため、生育が停滞気味であり、越冬までの追肥を実施している。開花は、平年よりやや早く10月下旬が盛期だった。

### (6) タマネギ

永平寺町では、10月24日から定植が始まっているが、降雨により定植作業が遅れ現在も行われている。

坂井地区でも定植作業が遅れ、11月5日～21日まで行われた。

### (7) ニンニク

永平寺町では、草丈27cm、葉数4枚で平年並みの生育となっている。

## 対 策

施設栽培では、降雪に対する対応の遅れにより大きな被害が発生することもあるので、早めに雪害防止対策を講じておく。また、施設内の保温、採光に努め、生育・収穫の遅延や低温障害等の発生を防止する。なお、天候の変化に留意しながら、内張りやトンネル等の開閉が遅くならないよう適切な管理を行う。越冬野菜は、圃場の排水対策などを徹底して生育を確保する。

## 1 施設野菜

### (1) イチゴ

最高気温28℃、最低気温8℃を目安に温度管理を行う。また、ミツバチや天敵への影響を考慮しながら、うどんこ病やハダニ類の防除を徹底する。

### (2) 軟弱野菜

生育が遅延しないように保温管理を行う。また、生育後半はかん水を控え、葉色が濃く、厚みのある葉に仕上げる。

ホウレンソウは、べと病抵抗性品種を利用するとともに、ハウス内が過湿になるのを避ける。コカブの根部肥大には日照の確保が重要であるので、間引きが遅れないようにする。

### (3) 果菜類の育苗

#### ア 育苗床

育苗床は、一般に電熱温床が利用されるが、温度の確保のため保温性が高く、温度ムラの少ない構造とする。なお、播種床は高温を必要とするので、電熱線を密(120W/m<sup>2</sup>)に設置する。また、鉢間隔が不十分な場合には日当たりが悪くなって苗質が低下しやすいので、苗床面積を十分に確保しておく。

## イ 床土・資材準備

床土は、病気や害虫、雑草発生の無い土に堆肥や肥料を混合して、保水性、排水性が良く、肥効が安定したものを使用する。床土消毒は、薬剤消毒や蒸気消毒等を行うが、いずれも堆肥を混合する前に用土のみを消毒する。なお、薬剤消毒では低温でガス化が弱いので消毒期間を十分にとり、薬害を発生させないように十分にガス抜きを行う。トレイやポット等の育苗資材についても清潔なものを準備する。

## ウ 育苗管理

### ① 温度管理

多くの果菜類の発芽温度は28～30℃程度であり、発芽までは温度不足にならないよう播種床は別に設置する。発芽後は、低温障害に注意しながら苗の生育に合わせて徐々に温度を下げる。

### ② 日照確保

苗の徒長を防ぐため、光透過率が高い新しい資材を用いる。また天気の良い日は育苗ハウスのカーテンやトンネルを開放してできるだけ日照を確保する。

### ③ かん水

多かん水は苗を徒長させやすいので、夕方には床土の表面が乾く程度にかん水を行う。なお、床土にモミガラを混入した場合は、保水性が劣ることからかん水回数が多くなって苗を徒長させたり、乾燥によって苗を萎れさせたりしやすいのでかん水管理に注意する。

### ④ 病虫害防除

トマト黄化葉巻病はタバココナジラミが媒介するウイルス病で、育苗期に罹病すると大きな被害につながるため、タバココナジラミの定期的なローテーション防除に努める。また、ハウス内の除草など物理的な防除に努める。うどんこ病などの病虫害防除を徹底し健全な苗の生産に努める。

## 2 露地野菜

### (1) 秋冬野菜の圃場衛生

キャベツ、ハクサイ、ダイコン等の収穫を終了した圃場は、収穫残さを圃場外に持ち出し、翌年の病虫害の原因にならないようにする。

### (2) 越冬野菜の管理

#### ア 一寸ソラマメ

12月上旬までに不織布等でトンネル被覆を行うが、被覆する前に赤色斑点病の対策として、薬剤防除を行う。また、排水溝を整備して湿害を防ぐ。

#### イ キャベツ、ネギ、タマネギ、ニンニク、ラッキョウ等

排水不良による湿害や病害を防止するため、排水対策を徹底する。

## 3 ハウスの雪害防止

冬期間利用しないハウスは、栽培終了後できるだけ早く被覆資材を除去する。

冬期間利用するハウスは、降雪前に雪害防止対策を十分整えておく。大雪警報・注意情報等が発令された場合には、直ちに対応し被害防止に努める。

### (1) ハウスの補強

積雪によるハウス倒壊を防止するため、丸太や竹等をハウス内に持ちこみ準備しておき、降雪が予想される場合は、3～4 m間隔で支柱を立てハウスを補強する。

また、積雪荷重により肩部が左右に広がると倒壊しやすくなるので、ワイヤー等で引き付けておく。ワイヤー間隔が約6 m以上になると、ワイヤー間中央部ではその効果がほとんどなくなるので、支柱と同等の間隔で、支柱の間に張ることが望ましい。



### (2) 屋根雪の滑落促進

屋根雪はハウス内温度を4℃以上にすると、ほとんどの場合滑落するため、加温機やストーブによる加温を積極的に行う。また、内張りカーテンがある場合は、カーテンを開放し天井まで暖かい空気が行き渡るようにする。

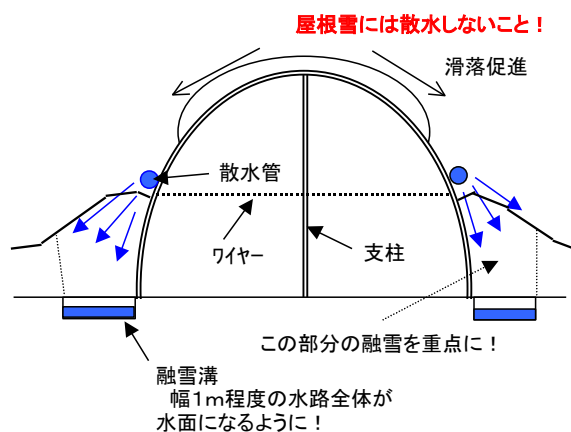
滑落しない場合は、手作業で強制的に滑落させ、屋根に雪を乗せたままにしない。特に、積雪による被覆資材のゆるみが直管パイプに引っかかって屋根雪の滑落を阻害するので、積雪が多くないうちに人力で除雪しておく。特に、天窗は積雪しやすいので注意する。

### (3) ハウス周囲の除雪

滑落した雪がハウスのサイド部に積もった場合は、早期の除雪と散水による融雪を行う。

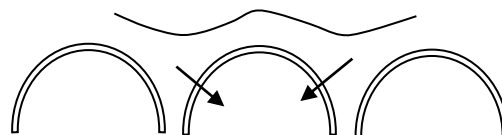
なお、屋根部まで積雪してから除雪する場合は、ハウス両側を均等に除雪するようにし、片荷重によるハウスの倒壊を防ぐ。

除雪機を用いる場合は、ハウス周囲を整理して除雪機の通路を確保しておく。なお、効率的に除雪を行うには、いずれも積雪が多くなる前から稼動することが重要である。



ハウスの雪害対策

ハウスの隣接間隔が狭い場合は、1棟おきに休作して被覆材を除去し、雪の捨て場を確保する





#### (4) 被覆資材を除去してあるパイプハウス

被覆資材を除去してあるパイプハウスでは、パイプ交点等に積もった雪が着雪し屋根一面に積雪するので、時々人力で雪を落としておく。また、ハウス肩部や腰部のパイプ等が積雪に埋没したままにしておくと、沈降圧によって変形、破損等の原因になるので、早めに掘り出しておく。



ハウスを覆うぐらいの積雪があった場合、肩部から除雪を始める